

令和7年8月13日

須賀川市議会議長 佐藤 瞭二 様

会 派 名 新政会

代表者名 代表 市村 喜雄



会 派 名 ニュー令和

代表者名 代表 大内 康司



会 派 名 耶麻文快

代表者名 代表 安藤 正博



### 視 察 研 修 報 告 書

先に実施した視察研修概要について、下記のとおり報告いたします。

#### 記

- 1 期 日 令和7年7月22日（火）から令和7年7月24日（木）
- 2 視察先及び視察内容
  - (1) 愛媛県松山市  
「まちなかウォークアブル推進事業について」
  - (2) 香川県高松市  
「スマートシティたかまつについて」
- 3 参 加 者 新 政 会 市村喜雄（代表）、鈴木正勝、石堂正章、鈴木洋二、  
柏村修吾  
ニュー令和 大内康司（代表）  
耶 麻 文 快 安藤正博（代表）
- 4 概 要 行政調査日程及び調査内容は別紙添付資料のとおり



## 愛媛県松山市「まちなかウォークブル推進事業について」

1 日 程 令和7年7月22日（火）14：00～

2 場 所 松山市役所本庁舎

3 説明者 都市整備部交通拠点整備課 市駅前広場整備担当課長 村井望  
都市整備部 交通拠点整備課 主幹 林昌宏  
松山市議会事務局 議事調査課 副主幹 大内平臣

### 4 概 要

松山市には JR の松山駅と松山市駅があります。2000年（平成12年）からネットワーク形成の都市空間づくりを継続的に推進しています。

松山市駅は市内最大の交通結節店で花園町通りと銀天街をつなぎ、1日3万人の乗降客が行きかう場所です。

松山市駅前広場の課題

- ・歩行者動線の分断や交通渋滞
- ・路線バスとタクシーや一般車の輻輳
- ・放置自転車や狭小な交流広場

整備に向けた取り組み

H30.9 広場の改変構想

R3.11 社会実験の実施（交通への影響や賑わい創出の効果などを分析・評価）

R4.3 松山市駅前広場の整備計画の策定（広場の配置プランや周辺道路の交通円滑化対策など）

R5.10 松山市駅前広場実施計画の策定（景観デザインや通行ルールの変更スケジュールなど）

広場コンセプト

人々の往来と賑わいを「つなぐ」松山の交通・交流拠点  
～「歩いて暮らせるまち松山」の交流広場～

広場整備—自動車中心の空間から歩行者中心の空間へ

景観デザインで電車やバスの乗り場に屋根やベンチの設置  
イベントに活用できる広場

周辺の駐輪対策

植栽帯を活用した路上駐輪場、既存の平置き駐輪場を2階建てにて増設

沿道商店街の景観まちづくり—市駅前商店街—

広場の整備と一体的な魅力ある街並みに向けて、老朽化したアーケードを撤去し、景観まちづくりデザインガイドラインを策定、ファサード（外壁）整備を実施

### 5 所 感

（1）市村喜雄

駅前広場の整備構想から5年をかけ実施整備計画を策定し、現在、広場整備工事に着工し電停ホーム

工事やバス乗降場の整備が行われていた。何もない空き地を整備するのと違い整備時間も手間暇も工事費もかけウォーカーブル推進事業に取り組んでいる。駐車場は、地下駐車場を含め1,000台以上に駐車場があり充足しているとのこと。他の地方都市と同じように郊外型のショッピングセンターは出店されている。街中の交流広場としての景観デザイン、イベントとしての活用時のデザイン、沿道商店街とのファサードの景観協定など街中の経済的活性化を含め「歩いて暮らせるまち松山」の成功を祈ります。

## (2) 鈴木正勝

最初に、都市整備部交通拠点整備課の林昌宏主幹と市駅前広場整備担当の村井望課長より、歩いて暮らせるまちづくりにおける駅前広場整備の概要について説明を受け質疑応答を行い、その後、駅前整備の現状について現地にて説明を受けながら質疑を行いました。

平成30年の広場改変構想の公表から令和3年に交通への影響や賑わい創出の効果などの分析・評価を行う社会実験の実施を経て、令和4年3月に松山市駅前広場整備計画の策定、令和5年10月に松山市駅前広場実施整備計画を策定し、令和8年度中の完成を予定し、少子高齢化が進む中で、公共交通をはじめ、歩行者や自転車に配慮した「歩いて暮らせるまちづくり」を進めるとした計画となっております。

また、「松山城」や「道後温泉」など国の内外に誇れる資源をさらに活かすためには、歩いて、健康で、生き生きと暮らせ、そして「にぎわい」を生み出す空間を創り出し、それらをつなげるネットワークづくりの取り組みを進めているとの説明がありました。

次に、市域中心部が平地となっていることで自転車の利用が多くなっており、平日約650台、休日約910台の放置自転車が発生していることから、その対策として、①既存の市役所第4別館前駐輪場(現状1階建て)を2階建てに変更、②中之川通りの植栽スペース等を活用し路上駐輪場を設置により、必要な台数を確保しております。

さらに、来訪者と通勤者では、駐輪時間、頻度、料金負担への考え方などの特性が異なるため、駐輪時間の短い方へは、既存駐輪場の周知や利用の啓発を行い、駐輪時間の長い方へは、利用ニーズに合った駐輪場を新たに整備しております。

この整備事業は、松山市にとっては大規模なまちづくりとして、駅周辺の様子が大きく変わるものになっており、きめ細かな整備計画になっていると感じました。

当市でも、松山市の歩いて暮らせるまちづくりへのこの取り組みは大いに参考になると思いました。

また、広場完成後の管理運営や利活用について、周辺の商店街関係者や交通事業者等とワークショップを継続して行い、令和6年度には社会実験(イベント)を開催するなど、広場完成後のにぎわい創出やエリアマネジメント団体の設立に向け、準備を進めており、これからの須賀川市駅西地区での活用を考える上で、大変参考になる調査となりました。

## (3) 石堂正章

愛媛県松山市は、人口約49万4千人の愛媛県の県都として発展している市であります。

今回の主なる調査・視察は、『まちなかウォーカーブル推進事業』という、平成12年から「ネットワーク形成の都市空間づくり」を継続して推進している事業の一環として企画された、「松山市駅前広場整備事業」の取り組みについてであります。

「歩いて暮らせるまち松山」を目的とした、都市機能を高める拠点とネットワークづくりの中で、松山市内最大の交通結節地域の整備事業となっております。

1日の乗降客が約3万人で、市内電車、郊外電車、路線バス、タクシーが集積する駅前の整備であり、平成30年の改変構想の公表から、令和5年からの実施整備計画の策定まで「人々の往来と賑わいをつなぐ、松山の交通・交流拠点」というコンセプトの掲げ、自動車中心の空間から歩行者中心の空間への変貌を目指しているそうです。

人口規模、利用者数は須賀川市の比ではありませんが、そのコンセプトはとても見習うべき観点であると感じました。

持続可能な地方都市のあるべき姿は、いわゆる「コンパクトシティ」を目指していくことが肝要であり、人口減少に突入している今だからこそ、重要な考え方の一つであると思っております。

その様な中で、交通・交流の結節点の整備は急務だと考えておりますので、松山市で取り組まれている事業は、その点において、一つの重要な考え方の方向性を示していただいた視察だと感じられる、視察内容であると思いました。

松山市で行われている、【まちの資産】をつなぐ重要な手段としての「歩き」を前面に押し出している施策の展開は、須賀川市にとっても目指すべき観点でありますので、人口減少の問題、及び、財政の健全化に対応するためにも、様々な課題の解決に向けての「道標」として、今回の行政調査の内容を前提に、今後の取り組みにおいて関係各所との意思疎通を充実させて、前進していくことが重要だと感じましたし、その様に活動することこそが須賀川市が直面している、諸課題についての解決策の一助となるということを念頭に、「まちづくりひとづくり」に邁進してまいりたいと思います。

#### (4) 鈴木洋二

松山市にはJRの松山駅と松山市駅があります。

松山市前の課題は歩行者の動線の分断や交通渋滞、路線バスとタクシー・一般車の幅轆・放置自転車や狭小な交通広場などがありました。

松山市駅は市内最大の交通結節点であるためその課題解決のために整備に向け取り組んでいます。電車、バス、一般車両、人、自転車の動線確保が整備されてきているため将来にむけて使いやすい駅前広場になります。また交流広場の整備もおこなわれイベントが出来る広場になるので人が集まり賑わいを作れる場所になります。

沿道商店街には老朽化したアーケードがありました。今回撤去し景観まちづくりデザインガイドラインを策定し、ファサード整備を実施しました。

この事業は沿道商店街も老朽化したアーケードの撤去には課題でありましたがこの整備事業が国などからの補助を受けれることから商店街が自ら該当する店舗に同意を取りつけスムーズに進みました。

放置自転車の対策周辺に駐輪場を整備しています。

松山市駅前整備が完了すると人の交流がしやすくなる場所になりますし交通の要所のため商店街の活性化になるのでとても良い取り組みであると感じてきました。

#### (5) 柏村修吾

##### ①松山市の主な概要

人口：494,362人

面積：429.35 km<sup>2</sup>

瀬戸内海に面し松山平野の北部を中心に広がり変化に富んだ海岸線を形成し、好漁場を有し優れた景観から瀬戸内海国立公園にも指定されている。

②視察項目の中で主に説明や実施場所の見学を行い「市駅前広場整備」における様々な課題について伺うことができた。

駅前整備といっても主に路面電車（伊予鉄）の交通網を中心に進められ商店の中心として考えられているのがデパートとして「高島屋」百貨店の玄関からの利便性を考えている。他にも百貨店として「三越」もあり福島県には百貨店として唯一の「うすい」があるが三越の傘下にある。

また、JR松山駅との関連については現時点では別に考えておりJR松山駅周辺はJR独自に現在再開発を行っている状況にある。どちらの計画も完成してお互いに関係性を共有することによりますます住みやすい松山市になるのではと考える。今後の楽しみである。

市として今後の課題として上げられている事項として「自転車」の取り扱いがある。地形的に松山城以外平坦であり苦勞なく市内を自転車で移動できる状況にあり中心地には大学があり学生も自転車を主の交通手段として使用している。そのため駐輪はどこでも行うため歩道には駐輪されている様子が見られた。その為駅前広場整備の対応策として駐輪場を約1400台使用できるように考えているとのこと。松山市はプロスポーツチーム（野球・サッカー・バスケット）を誘致し施設も整備されつつあるが現時点では力を入れて経済効果を期待するよりも「市駅前広場整備」に力を注いでいる状況にある。

大々的に市内の整備に取り掛かることはかなりのリスクがあったようである。しかし実現に向けて市全体で取り組んでいる姿は勉強になった。

#### （6）大内康司

松山市は人口四国一番の49万8,000人で瀬戸内海に面し近代俳句の祖、正岡子規、日露戦争の秋山好古、真之兄弟の記念館等が有る県庁所在地で路面電車、JR、バス、タクシー、自転車の交通手段により車中心の空間から歩行者中心の構想が平成30年に公表された。

令和3年に社会実験の実施、令和5年に実施整備計画の策定、沿道商店会の街づくり景観街づくりに協力をして、主要道路片側3車線歩道も幅広く、植栽帯の活用で放置自転車の整理と平屋の駐輪場を2階建てに改築。計画終了は令和8年秋に計画していた。

猛暑の中事務局が3名出席の上現地案内と説明を受け、須賀川駅東西の整備の参考になりました。

#### （7）安藤正博

松山職員の歓迎をうけ市村委員長の挨拶、松山市職員の説明と質疑応答ののち、駅前の現地にて現状の説明を受けました。

駅利用の市民に交通ルールの変更規制するのが大変でしたとの事です。

アーケードを撤去し影観のあるまちづくり、外壁を整備し軒下かんばん（ぼっちゃん列車の型）電車の電停を移設し活気あるイベントなどにぎわいの交流広場になっていくとの事です。

松山の交流拠点として商業の活性化、松山城、文学の松山、道後温泉をつなぐネットワークを活用していくとの事です。

バス、タクシーの配置、バスは3台、タクシーは30台を14台分とした。休憩しているタクシーが多

いとの事でした。

須賀川駅前広場もタクシーを3台から5台位にして送迎用スペース駐車を多くする事など良い方法だと思います。

イベント広場、キッチンカー用地を作る事も良いと感じました。

大いに参考になる研修でした。

## 6 視察風景



## 香川県高松市 「スマートシティたかまつについて」

1 日 程 令和7年7月23日（水）14：00～

2 場 所 高松市役所本庁舎

3 説明者 高松市総務局 次長兼総務局デジタル推進部長 新田耕司  
高松市総務局 デジタル推進部デジタル戦略課 課長補佐 岡宗典

### 4 概 要

#### スマートシティたかまつのプロジェクトの推進

人口減少、少子・超高齢社会の本格到来やデジタル技術の急速な進展など、本市を取り巻く社会情勢が大きく変化しており、今後においては、本市のスマートシティやデジタル戦略を社会全体で共有を図りながら、組織横断に取り組みを推進することが求められているため、今後の取り組みにおける理念や目指すべき方向性を定めた「スマートシティたかまつ推進ビジョン（2025～2031）」を策定している。

#### 目指す姿

いつでも、どこでも、誰でも快適に過ごせる、持続的に成長するまち「スマートシティたかまつの」基本方針

- 1 課題やニーズの適格な把握
- 2 変革意識と新しい発想でチャレンジ
- 3 持続可能でスマートな社会を追求

施策1 暮らしのDX デジタルでつながる快適な暮らし

施策2 しごとのDX 誰もが活躍できる魅力あるまち

施策3 行政のDX 市民目線によるスマートな行政

施策4 人材育成と基盤強化 持続可能な社会の形成

防災分野と観光分野でプロジェクトを開始

#### 防災分野

日本の中では災害の発生が比較的少なく、市職員が災害対応の経験積んでいない。

悪条件が重なると、都市機能と海の近さが仇となり、広範囲被害が発生する。

#### 観光分野

中心市街地が平坦あり、自転車を利用しやすい条件揃っている。

市が運営するレンタサイクル事業活用し、大きなコストをかけずに観光客のデータを 収集

防災分野において収集・利活用するデータ

センサーから取得した水位等のリアルタイムデータと地図情報等を組み合わせたデータ利活用を行うことで、早期安全対策の実施、災害対応の効率化

#### 水位・潮位センサー

○高松市水防計画指定水位・潮位観測地点より選定した河川、水路に設置

○カメラ（静止画）画像による状況把握

想定図等（地図情報）

○土砂災害危険区域図等の地図情報とセンサー等から得られる情報を組み合わせデータ活用  
県防災情報との連携

○かがわ防災 Web ポータルより水位情報やダム情報を入手し、県防災情報と地域情報を組み合わせたデータ利活用を実施

制御ボックス、水位・潮位センサーの設置

水位：9 箇所+可搬型 3 箇所（追加整備）

潮位：5 箇所

観光分野におけるデータ利活用

レンタサイクルの利用動態から特に外国人観光客の動態を分析し、施策展開に活用

■起終点の把握

○座標データより、自転車利用の出発、目的地の位置が把握可能

■利用経路・行動範囲の把握

○座標データより、自転車が通過した形跡がわかり、走行した利用経路が把握可能

■移動時刻・滞在時間の把握

○ログの取得時刻により、移動時刻や到着時刻、目的地における滞在時間が把握可能

市直営レンタサイクルの自転車 1250 台のうち、50 台にGPSロガーを取付

福祉分野における取組

○高齢者見守りへのICTの活用として、香川高専、(株)ミトラとの連携協定に基づいて、呼吸や心拍等のバイタル情報が把握できるウェアラブルIoT機器を開発し、ICTを活用した地域包括ケアシステムの構築の推進を図る

○「地域一体型バーチャルケアによる介護予防推進事業」として平成30年度総務省

「IoTサービス創出支援事業」に採択

窓口DX推進

令和7年5月に、窓口DX推進における方向性と今後の取組方針を政策決定

誰でも快適に手続き可能な、優しいデジタル窓口

デジタルファーストな窓口

基本はデジタルファーストいつでも、どこからでも手続き可能な窓口

誰一人取り残さない窓口

年齢、性別、国籍、障がいの有無に関わらず、全ての市民が安心して、必要な情報やサービスにアクセスできる窓口

市民にも職員にも優しい窓口

市民の利便性向上だけでなく、職員の負担軽減にもつながる効率的な窓口

■3つの取組方針

取組方針①「行かない窓口」

どこからでもオンラインで行政手続き完結

自宅からも出かけ先からもどこでも利用可能

## 5 所 感

### (1) 市村喜雄

様々なスマートシティに向けた事業の中で、地域のエネルギーリソース・エネルギーデータを一元的に把握・運用できる最先端の仕組みを電力会社と共に構築し、エリア単位でエネルギー利用を最適化し、さらに分野横断でデータの連携や活用を進めることにより、住民・社会の行動 変容を促す新たなサービスを創出し、地方中核都市における持続可能な低炭素社会モデルを、実現に向けての取り組みについて今後どのような展開になるのか期待したい。

### (2) 鈴木正勝

最初に、新田耕司総務局(政策担当)次長兼デジタル推進部長と岡宗典デジタル戦略課長補佐より、①スマートシティたかまつの概要、②各分野における取組事例(防災分野/観光分野/福祉分野)、③産学民官連携の仕組み(スマートシティたかまつ推進協議会)、④その他の取組(窓口DX推進/デジタルデバйд対策/FACT)について説明を受け質疑応答を行いました。

平成28年にG7香川・高松情報通信大臣会合の開催を受け、翌年の平成29年に「データ利活用型推進事業」が採択され、スマートシティたかまつ推進協議会を設立し、令和元年にスマートシティたかまつ推進プランが策定され、現在、スマートシティたかまつ推進ビジョン(2025-2031)により推進が図られています。

防災分野では、市民向けにたかまつマイセーフティマップがあり、○市民ひとりひとりにとっての災害リスクと、防災施設・サービスが見える防災アプリ ○本市のIoT共通プラットフォームに収集しているデータ、本市のオープンデータ、デジタル化したハザードマップ・道路のデータを利用する。

観光分野では、○中心市街地が平坦であり、自転車を利用しやすい条件が揃っている ○市が運営するレンタサイクル事業を活用し、市直営レンタサイクルの自転車1,250台のうち、50台にGPSロガーを取付けて大きなコストをかけずに観光客のデータを収集しています。

福祉分野では、高齢者見守りへのICTの活用として、香川高専、(株)ミトラとの連携協定に基づいて、呼吸や心拍等のバイタル情報が把握できるウェアラブルIoT機器を開発し、ICTを活用した地域包括ケアシステムの構築の推進を図る。

窓口DX推進では、令和7年5月に、窓口DX推進における方向性と今後の取組方針を政策決定し、3つの取組方針の下、全庁的に窓口DXを推進するとしており、方針①オンラインによる『行かない窓口』、方針②『書かない・待たないワンストップ窓口』、方針③『持続的なDX人材育成』となっております。

須賀川市においても、スマートシティのまちづくりを促進して行く上でDXの活用が重要になることから、各分野での取り組みを進める事と、地域の実情に応じてICTを活用した取組や、デジタルデバйд解消に向けた各種の取組を実施できる体制の構築へ大変参考になる調査となりました。

### (3) 石堂正章

香川県高松市は、人口約41万6千人の香川県の県都として発展している市であります。今回の調査内容である「スマートシティたかまつ」については、平成28年から取り組みが始まっておりまして、平成29年に「スマートシティたかまつ推進協議会」の設立、令和元年に「スマートシティたかまつ推進プラン」の策定、令和7年に「スマートシティたかまつ推進ビジョン」を策定し現在にい

たっております。

その「推進ビジョン」における目指す姿としては「いつでも、どこでも、誰でも快適に過ごせる、持続的に成長するまち」として、三つの基本方針、施策として「暮らし・しごと・行政のDXと人材育成と基盤強化」（持続可能な社会の形成）の四つを掲げて推進していくそうであります。

また本年は、「アクションプラン2025」として、四つの施策の中で全29項目に対応して推進していくこと、特に「防災」「観光」「福祉」の分野での取り組みの事例について説明をしていただきまして、理解を深めたところであります。

併せまして、行政の「窓口DX推進」対応に関しまして、「誰でも快適に手続き可能な、優しいデジタル窓口」を目指し、「行かない窓口」、そして「書かない・待たないワンストップ窓口」の構築、加えまして「持続的なDX人材育成」を取り組み方針として推進していくそうでありますし、「デジタルデバイド対策事業」、「フリーアドレスシティたかまつ（FACT）」として、時間や場所の制約から解放され、デジタルをツールに「ひと」と「ひと」をつなぎ、人間らしく生活するために必要な出会いや交流を生み出すまちの実現を目指していくという事業の説明を受けました。

全体的な印象としましては、大都市ならではの財政的な裏付けと人材の投入が図られている感じを持ちましたが、そのポリシーは大いに勉強になると思いました。

やはり人材育成が重要な案件であり、例えば有用な施策実行を遂行していくための「プロジェクトチーム」を構成していく中で、「リーダーとスタッフ」のバランスの良い選出と育成などが、非常に重要な取り組みになると改めまして確認したところであります。

今回の行政視察内容を、そのまま須賀川市に当てはめることは出来ませんが、ここでもやはりその「ポリシー」を最大限に活用することなどについては、熟慮を重ねていくことを念頭において、高松市における行政視察の内容を最大限に活かして行きたいと思っております。

#### （4）鈴木洋二

スマートシティたかまつのプロジェクトは人口減少、少子化・超高齢社会の本格到来やデジタル技術の急速な進展など、取り巻く社会情勢が大きく変化していることに伴いスマートシティやデジタル戦略を共有し組織横断的に推進することが求められました。

高松市は都市機能と海が近いこと悪条件が重なると、それが仇になり広範囲に被害が発生する危険性があります。

そこで制御ボックス、水位・潮位センサーを設置し災害対策本部で活用に使っています。

アンダーパスなどの水位、潮位、冠水状況などを地図上にアイコンで表示され対策本部での対策に役立っています。ただ住民に情報が共有できないため少し残念でありました。

観光分野でのデータ活用ですがレンタルサイクルの自転車1250台のうち50台にGPSを取り付け外国のお客さんがどこの国の人でどの様な場所に行っているなどの周遊観光でデータを取っています

これは将来外国からの観光客がどの様な場所に行きたいかなどのサンプル調査に役に立ちます。

福祉分野での活用で民間と連携してセンサーが付いている着衣健康講座や介護施設などでデータを取り健康づくりに役立っています。

この様な取り組みは人口減少しても市役所の仕事量は増えることになるため積極的にデジタルを活用していく取り組みです。本市においても同様な取り組みが進んでいますが先進事例として参考になり

ました。

## (5) 柏村修吾

### ①概要

人口：416,109人

面積：375.67 km<sup>2</sup>

県庁所在地で四国遍路終着点の八十八か所の霊場である。高松城と栗林公園がある港湾都市である。四国と岡山を繋ぐ重要な都市である。県民が選ぶ「住みたい街」ランキング5年連続1位である。

②視察に当たり素晴らしい資料が提示され興味をそそられる内容（スマートシティたかまつの推進）であり一つ一つ丁寧に説明を「高松市デジタル戦略課」の担当者より伺うことができた。

このような内容の実現に向けて人材育成について

- 1) 職員研修と意識改革で若手職員は前向きに取り組もうとしているが反面管理職への周知徹底も課題としてあるとのこと。
- 2) 教育関係との連携については主に香川大学・高松大学等と協力し行う。義務教育関係とは今後の課題として関係する会議に市長・教育長を交えて進めていく方向である。
- 3) 高齢者に関しては「スマートフォン」を主に広めていきたいが持っていない方への周知が課題。
- 4) 災害対策は海に面しているため特に災害時の水位の上昇等がメインであり、大震災を経験している私たちとは違いがあり終戦後「高知地震」が発生したことについては現時点では想定していないとのこと。

これらのことからまだ動き出したばかりであるため課題も多くこの計画が順調に一つ一つ問題を解決し実現し「スマートシティたかまつ」が実現した時点で解決策を実際に拝聴したい。

## (6) 大内康司

デジタル利活用で未来のまちづくり。

スマートシティ高松市推進プランは、令和4年から令和6年によるもので市民全体がデジタル技術を活用出来て、社会全体のDXを進める事で誰もがどこからでも利便性を享受できる“スマートシティたかまつ”の実現を目指す。

源平時代の古戦場と知られる屋島が有る海浜都市で人口41万8,000人、平坦な市街地は温暖（最近では高暑である）でさぬきうどんの名産地、みかんを中心に果実が多く生産されている。

最近の多雨被害（海に近く平地）の発生に備えて、河川や側溝に水位計を設置し、役所の防災部で市民や観光客のためデータを利活用している。そのほか活動中の多くのワーキンググループが有り、活動を終了した交通事故撲滅WG、交通データ流通活用WG、観光情報利活用WG、防災IoT活用WG、スーパーシティ構想WG、デジタル市民参加プラットフォームWG等もある。

## (7) 安藤正博高松市

議会事務局の案内にて議会棟にて、市村委員長の挨拶ののちスマートシティの説明と質疑応答の中で私は観光分野の自転車レンタルGPSのデータに感心があり1,250台のうち50台のGPSを必要性のある10ヶ所にレンタサイクルがあるとの事。

通過エリア、滞在エリア目的周遊範囲など利活用されている事など大いに参考になりました。

須賀川市でもレンタサイクルはありましたが今はやっていないようだ。神社、仏閣、また俳句のまち須賀川芭蕉のめぐる道を県外や感心のある観光客を案内人とめぐるなどレンタサイクルの利用は大いにあると思いました。

大変意義のある研修でした。

## 6 視察風景

